

稲毛田刃物工業(株)



## 稲毛田刃物工業株式会社

代表取締役 稲毛田 信二 氏

### ■企業概要

本 社：茨城県坂東市逆井2658-10  
 創 業：昭和43年3月1日  
 資 本 金：9,800万円  
 従 業 員：58名  
 事業内容：工業用機械刃物製造、販売

坂東市に本社を置く稲毛田刃物工業株式会社は、今年で創業48年を迎え、工業用機械刃物製造業界において日本で3本の指に入る高い技術を保有する企業です。

同社が製作する段ボール用加工刃物は、国内で8割のシェアを誇ります。また、高い耐久性をもつ特殊刃物は、国内で同社と他1社しか製造することができません。

高い精度を保つ秘訣は、他社製品の多くが発注寸法との差異を100分の5以下としているのに対し、同社は100分の1以下という厳しい基準を設けているところにあります。

「鉄は生きている」と語る同社代表取締役の稲毛田氏は、日進月歩で進化し続ける技術に対応するため、社員とともに技術向上の取り組みを進めています。また、社員を家族のように大切に守り育てていく社風が、結果として会社のレベルアップに繋がっています。

(インタビュー日：平成28年4月27日)

【聞き手：筑波総研(株) 専務取締役 藤咲耕一】

**御社の創業までの経緯などについてお聞かせください。**

### 独立を夢見た18歳の若き技術者

当社の創業者は、現取締役会長の稲毛田茂です。会長はこの地で生まれ育ち、幼い頃から機械いじりが大好きな少年でした。

中学卒業後、会長は三桜工業(株)で鉄を研削し自動車の部品を製造する業務に従事していました。3年後、岩井町(現坂東市)に日本タイプライター

(株)(現キヤノンエコロジーインダストリー(株))の工場が建設されたことをきっかけに、同社に技術者として転職しました。

2社で様々な技術を学び、知識と経験を蓄積した若き日の会長は、当時、地域の道路がでこぼこで車の故障が多く、修理の需要も高まっていたことを受け、「いつか鉄を扱う会社を設立したい」という夢を抱くようになりました。

そこで、18歳から5年間で会社設立資金100万円を貯める目標を立て、さらに独立後も取引できるように、自社の営業を兼ねて自身の得意技術も併せて周囲に宣伝するようにしていました。

### 技術と営業力で業績は右肩上がり

会長は、独立資金が貯まったと同時に退職し、昭和43年3月1日、現在本社を構える地に当社の前身となる稲毛田刃物製作所を設立しました。

念願の夢をかなえた会長でしたが、「1年間続けてみて、軌道に乗らなければ事業をやめよう」と覚悟を決めていました。それは、婚約していた女性(現在の奥様)を待たせていたこともあったようです。

当時、この地域で鉄を刃物に加工できる技術者が少なかったことや独立前から始めていた営業努力が実り、幸いにも業績は右肩上がりに伸び、晴れて結婚することもできました。

その後、寝る時間を惜しんでまで作業する日々が続き、ついに身体を壊す一歩前まで来てしまったことをきっかけに、会長の父や妹夫婦にも事業に携わってもらうようになりました。

そして、昭和59年6月30日、業績拡大に合わせ、社名を稲毛田刃物工業株式会社に変更しました。

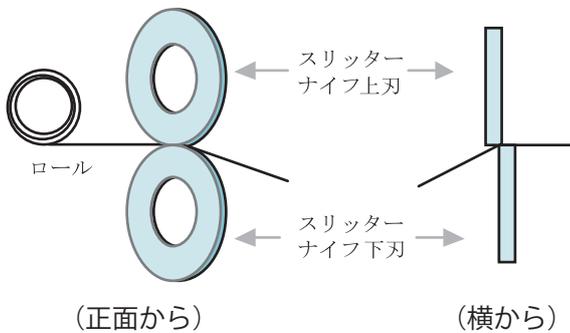
御社の事業概要や主力商品などについてお聞かせください。

市場に現存する素材は全て切断可能

当社は、超硬合金材を使用したスリッターナイフの上刃や下刃、超微粒子合金材の刃物、超硬合金の断裁刃やシャー刃などの製造、販売をしています。また、超硬合金の鏡面研削や各種コーティングも行っています。

超硬合金は、鉄やステンレスより硬く、ダイヤモンドに次ぐ硬度を有しており、耐摩耗性が必要な工具に適した材料です。

スリッターナイフは、紙やフィルム、金属板などロール状の材料を必要な幅に切断（スリット）する機械（スリッター）に使用します。ナイフには上刃と下刃があり、この2刃の重なるわずかな部分で材料を切断します。

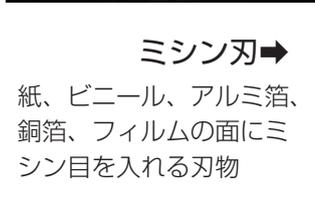


スリッターナイフで材料を切断する仕組み

当社は、現存する全ての素材を切断できる高精度スリッターナイフを製造することが可能です。当社商品の一部をご紹介します。



←金属切り刃  
鋼材がコイル状に巻かれている物を切断する刃物



ミシン刃→  
紙、ビニール、アルミ箔、銅箔、フィルムの面にミシン目を入れる刃物



←ギザ刃  
布、紙、ビニール、ゴム、アルミ箔、銅箔を、  
〰〰〰の形状にスリットする刃物



スリッターナイフの仕組みについて説明する  
稲毛田取締役会長(左)

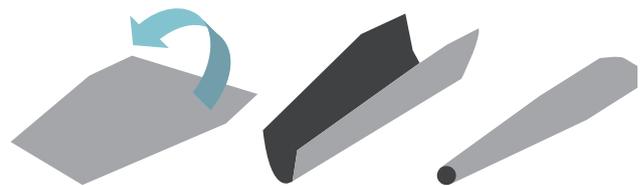
「日本一の技術」で生活をより豊かに

当社のスリッターナイフは、多くの人が一度は使ったことがあるものを切断しています。

造幣局では、紙幣を規程のサイズにカットするために当社の刃物が使われています。また、トイレットペーパーのミシン目や段ボールの折り目、キャラメルの包装紙、楊枝、銅線、注射針、食品（肉やパン）の切断などにも使われており、当社の技術は人々の生活に密接に関わっています。

私は、当社の技術向上が、人々の生活をより豊かにするものであると考えています。

例えば、「痛くない注射針」があります。一般的な注射針は、長細く加工したパイプを切断して製造します。一方「痛くない注射針」は、ステンレスの板を丸めて、人が痛みを感じない直径0.2mmに加工する必要があります。この加工は切断面に高い精度が求められるため、当社のスリッターナイフしか切断することができません。



「痛くない注射針」の製造方法

また、コンビニのおにぎりや大手寿司チェーンで使われている海苔にパリパリ感を出すために、当社が開発した「コンビニおにぎり包み用海苔穴あけミシン刃」が使用されています。

海苔の表面に直径1mmのダイヤモンド型の小さな穴を無数に空けることで、噛み切る時にパリッと音が鳴る仕組みです。

当社の技術が、皆様の食事をより豊かにするお手伝いができていることに大きな喜びを感じています。

## 御社の高い技術力を活かした商品や事業、今後の事業戦略などについてお聞かせください。

### 高度な技術が生み出す「超々鏡面」

当社は、高い技術を活かして「リチウムイオン電池用スペーサーライナー」を開発しました。

この商品は、外径に傷が全く発生しない超々鏡面研削で仕上げられています。そのため、リチウムイオン電池に使われるアルミニウム箔や液晶テレビの表面フィルムなど、傷がつくことが許されない製品の切断補助に使用することができます。



リチウムイオン電池用  
スペーサーライナー



工場内部で作業する女性技術者と稲毛田代表取締役

### 「技術で開く、切れ味の世界」

当社の技術は、国内中小企業の中で最も高い精度を保っています。段ボール用加工刃物は、国内で8割のシェアを誇り、高い耐久性がある特殊刃物は、国内で2社しか製造することができません。

また、他社製品の多くは、発注寸法との差異が100分の5以下であるのに対し、当社は100分の1以下という厳しい基準を設けています。

高い精度の刃物は、紙の裁断に効果を発揮します。紙を裁断する際に出る紙粉（紙繊維のチリ）が全く発生せず、紙本体に紙粉が付着した部分が白抜けする印刷不良が起きる心配はありません。

また、当社の刃物は商社を通じて世界中で使用されており、今後も積極的に海外展開していきたいと考えています。

海外進出した日本企業の工場に勤務する方の中には、当社の刃物の使い心地が気に入り、赴任先まで持参し、帰国後当社に研磨依頼をいただくな

ど、長くご愛用いただいているお客様もいます。

刃物は研磨すると、新品同様の切れ味になり、1回研磨する度に、素材を1万m分切断できるようになります。また当社には、世界でも刃物メーカーとして他にはない研削機「超大型ラップ盤」を2台所有しています。この機械にかければ、750φ（直径750mm）の刃物を5枚同時にミクロン台の寸法で研削することが

可能です。  
これからも、日本だけでなく世界中のお客様のお役に立てるよう、当社の企業理念である「技術で開く、切れ味の世界」を追求してまいります。



超大型ラップ盤

### 「一貫生産」で作業時間を短縮

私は、「鉄は生きている」と考えています。加工技術は日進月歩で成長し続け、1週間も経てば新技術が開発されていくため、当社の技術も日々高めていく必要があります。

会長が、創業時に刃物業界を選んだ理由として、鉄を加工して刃物にするだけでなく、研磨などアフターフォロー事業も展開できると考えたからでした。今後は、お客様の要望に短期間で対応していくことが、当社のさらなる発展に繋がると考えています。

そこで、今まで当社に不足していた焼き入れ技術を兼ね備えた工場の建設に着手しました。現在、鉄の焼き入れは外注しており、発注から納品まで約1週間かかっています。当社がお客様からの注文に対し、焼き入れから一貫生産することができれば、時間を大幅に短縮することができ、お客様の満足度向上にも繋がると考えています。



新工場建設の様子

社員や取引先に対する想いについてお聞かせください。

### 「提案しやすい社風」が会社を高める

現在、当社には58名の社員が在籍し、その3分の2が技術者です。私は、社員の技術力向上が会社の力になると考え、平成26年から茨城県の職業能力開発協会に入会しています。

また、当社では現場で働く技術者が気づいた視点を取り入れる仕組みとして、社員からの業務改善提案の募集を随時行っています。私と会長が寄せられた改善提案について確認し、内容によって金額は変わりますが、提案者に3,000円～1万円をアイデア料として授与しています。

これからも、社員の考え方を積極的に取り入れながら、会社のさらなる発展に努めてまいります。

### お客様との信頼づくりを大切に

当社は、誤った寸法で発注された場合でも、弁償金は一切請求しないことにしています。これは創業時から守り続けている信念です。

また、同じ種類の刃物でも、お客様側の製造環境（温度や湿度など）を考慮し、刃物の状態を微調整した上で納品しています。

お取引先とは「持ちつ持たれつ」の関係です。私は、お客様からいただく注文に対して、柔軟にそして真摯にお応えしていくことが、お互いの信頼関係に良い影響を与え、結果として会社の業績向上にも繋がると考えています。

また、事務所の2階には、社員だけでなくお取引先の方々にもご利用いただける多目的ホールを用意しています。会長の趣味である社交ダンスの練習もできる大きな鏡やカラオケ機材も設置しており、社員には大変好評です。

このように、福利厚生の実現を図ることは会社の役目であり、社員のやる気を高めることにも繋がっていると考えています。



多目的ホールの様子

最後に、社長様が考える「理想の会社像」についてお聞かせください。

### 家族のように社員を大切に

私も会長も、日頃から社員に対して自分の家族のように接しています。



稲毛田代表取締役と社員のみなさん

当社では、消防団に入っている社員には、団員として出動してもその分の給料を差し引くことはしません。また、お取引先に迷惑がかからないよう仕事を整理した上で、休暇を取得することを推奨しています。

私は、社員を自分の家族のように大切に守り育てていくことで、社員も会社に貢献する気持ちが芽生え、結果として会社のレベルアップに繋がると確信しています。

これからも、日々進歩する技術とおお客様の要望に対応できるよう社員一丸となって挑戦してまいります。



稲毛田代表取締役(中央)と猿島支店 本多支店長(右端)と聞き手・藤咲耕一

この度は、長時間にわたり貴重なお話をお聞かせいただきまして、誠にありがとうございました。御社の今後益々のご発展をご祈念いたします。

■文責／筑波総研株式会社 研究員 富山かなえ